

# 拓殖大学 vs 東京農業大学

9月7日(日)  
11:30K.O.  
平国大G

序盤の低迷を終盤一気に払拭して3位まで順位を上げて折り返した拓大と、得点力不足に苦しみ、上位に顔を出すことができなかった東農大との対戦。持ち前の攻撃力が復活した拓大に対し、東農大は失点はそれほど多くはないもののリーグ最少得点に悩むが、基本的には堅守速攻のチームだけに、はまれれば怖さを持っている。得意の展開に持ち込めるのはどちらか。

久々の上位につけている拓大。得点が奪えずチーム全体が自信をなくしていた前期序盤が嘘のように、終盤は豊富な運動量で攻守のバランスを整え、最終戦は平国大に5-0と圧勝した。序盤は失点数も多かったが、運動量が増えたことで相手ボールにしっかりとプレッシャーをかけることができ、結果として良い攻撃を組み立てることもつながった。3連勝という上り調子そのまま中断期間に入ってしまったが、その良いイメージを持ち続け、数年ぶりに昇格争いに絡むことができるか。悪い流れになったときのメンタルコントロールと、守備意識の継続が鍵となりそうだ。

対する東農大は、関東復帰2年目となった今季、10位で前期を折り返した。前期最終戦は退場者を出して0-3で敗れたが、10位とはいえ、11試合で失点13と悪

くはない数字。しかし、1試合平均で1点に満たない得点力の改善が図られたかどうか、後期の巻き返しに向けて最大のポイントだ。中断期間には、プレー面でも一体感を持つことを課題とした。前線の選手の奮起とともに、昨季のような鋭い攻守の切り替えから高い精度の速攻を仕掛けたい。

<3回警告>三浦勇人・多田和明(拓大)、中西宏太・小田原貴・金裕志(東農大)

<前期の対戦>拓大1-0東農大

拓大	東農大
13. 新山	2. 中西
7. 大森	11. 井上
6. 紙谷	15. 小田原
11. 西岡	10. 浜田
10. 柴田	9. 相川
1. 佐川	14. 石川
14. 宗像	25. 金
3. 三浦	5. 櫻岡
19. 森川	8. 佐々木
22. 多田	3. 加藤
2. 谷川	

# 神奈川大学 vs 平成国際大学

9月7日(日)  
13:50K.O.  
平国大G

今季、開幕7連勝というスタートダッシュで首位を走る神大と、前期はわずか1勝と苦しんだ平国大との対戦。前期の対戦スコアが示すように、またFW星子直哉(3年)が得点ランキングトップに立っているように、平国大も相手の隙さえ見れば得点力がないわけではない。それに対して、神大は持ち味の攻撃力を発揮したうえで、しっかりと要所を締める守備ができるかが勝負のポイントだ。

好調な前期リーグを送っていた神大だったが、終盤の2敗、特に前期最終戦で関学大に2-3で惜敗。ただし松永道敬総監督が「セルフコントロールを失い不用意な失点をしてしまった」と話したように、ミスからボールを奪われ後半立ち上がり15分で3失点と、自ら試合を壊してしまった格好だった。終了間際まで追い上げ関学大を追い詰めた攻撃力は、FW伊東純也(4年)を中心として高いものがあるが、アミノバイタル杯で産能大に5失点を喫したこともあり、失点しても早めのリカバリーが求められる。後期、改めて再びの1部昇格へ“チャレンジ”だ。

一方の平国大は、競り合った試合をなかなか思うような勝点につなげることができず低迷した。基本的には、

メリハリのある全員サッカーで積極的に相手に立ち向かっていくチームカラーだが、先制しながらも痛い逆転負けを喫するなど前期はダメージの大きな敗戦も多かった。特に最終戦は拓大に5失点を喫する、最も安定感のない試合をしてしまった。後期に向け、心身ともに立て直しを図ってきたはず。「自分たちを信じてった変えるチームをつくって後期に向かいたい」(西川誠太監督)。

<3回警告>杉山祐亮(神大)、小松崎雄太(平国大)  
<前期の対戦>神大5-3平国大

神大	平国大
3. 高木	11. 千葉
2. 湯澤	8. 佐藤
4. 藤原	5. 小松崎
10. 伊東	10. 堀越
6. 前田	9. 星子
12. 黒沢	22. 横瀬
8. 盛	21. 馬屋原
5. 杉山	7. 尾林
9. 郡司	2. 増田
11. 星	15. 須貝
7. 長野	4. 平野

\* 予想布陣は後期プログラムを参考に作成しています\*

# JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

**if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM**  
Division2 2014-NO.12  
編集：五味亜矢子 発行：(一財) 関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



## 神大・関学大がリードし後期開幕!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2 部リーグは、いよいよ後期開幕を迎える。前期は神大と関学大という神奈川県勢が勝点で並び、頭一つ抜け出している。それを追うのが、前期終盤で驚異的な追い上げを見せた拓大、そして総理大臣杯に出場した青学大と法大、さらに昨季1部の日体大の3チームが並んで虎視眈々と昇格争いへの参戦を狙う。7位に甘んじている東洋大もこのままでは終わらないだろう。また、都県からの昇格組である日大と産能大を含む下位5チームは、早めの巻き返しを図りたい。上位2チームに与えられる1部リーグ昇格、さらに2部リーグの

得点ランキング		アシストランキング	
7: 星子 直哉 (平国大)	6: 大森 勇希 (拓大)	6: 大森 勇希 (拓大)	5: 伊東 純也 (神大)
6: 中村 瞬 (関学大)	4: 萱沼 優聖 (関学大)	4: 萱沼 優聖 (関学大)	小林 玲櫻 (日大)
萱沼 優聖 ( " )	5: 全4名	上長 次郎 (産能大)	3: 全13名
富樫 敬真 ( " )			
中野 春樹 (日大)			

優勝争いはどのような展開を見せるのか、神大と関学大のデッドヒートになるのか。まずは、後期開幕戦で各チームの仕上がりが具合をチェックしたい。

## JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第11節終了時)

順位	2部	神大	関学大	拓大	青学大	法大	日体大	東洋大	東学大	日大	東農大	産能大	平国大	勝数	負数	点数	得失点	得失差	勝点
1	神大	2●3 11/15	4○0 11/9	2△2 10/18	3○1 11/2	0△0 10/26	0●1 10/5	3○1 10/11	1○0 9/28	3○0 9/13	4○0 9/21	5○3 9/7	7	2	27	11	16	23	
2	関学大	3○2 日体大G	2○0 10/26	1●4 11/1	2○1 11/9	2△2 10/18	1●2 9/13	3○0 9/27	4○2 10/4	2○1 10/11	3△3 9/6	5○0 9/21	7	2	28	17	11	23	
3	拓大	0●4 横須賀	0●2 古河	3△3 11/15	0●3 10/19	2○0 9/27	2○0 11/2	0●3 10/4	2○0 9/20	1○0 9/7	1○0 10/11	5○0 9/13	6	4	16	15	1	19	
4	青学大	2△2 青学大G	4○1 産能大G	3△3 産能大G	2△2 9/13	2○0 10/11	1△1 11/9	0●2 10/25	2○1 9/6	3○0 9/20	0●1 10/5	1△1 9/27	4	2	20	14	6	17	
5	法大	1●3 法大G	1●2 横須賀	3○0 味スタ西	2△2 保土ヶ谷	0△0 11/15	0△0 9/20	2○0 9/7	4△4 10/25	1○0 10/4	2△2 9/28	0△0 10/11	4	2	18	13	5	17	
6	日体大	0△0 保土ヶ谷	2△2 江戸陸	0●2 日体大G	0●2 日体大G	0△0 日体大G	2○1 9/6	1○0 9/21	0△0 11/8	1△1 11/1	4○1 9/14	2○1 10/4	4	2	12	10	2	17	
7	東洋大	1○0 青学大G	2○1 千葉東総	0●2 法大G	1△1 夢の島	0●2 青学大G	1●2 産能大G	0●1 11/15	0●1 10/11	1○0 9/27	4○0 10/18	3○2 10/25	5	5	13	12	1	16	
8	東学大	1●3 日体大G	0●3 東洋大G	3○0 法大G	2○0 早大G	0●2 早大G	0●1 日体大G	1○0 東学大G	0●2 9/14	0●1 10/18	1△1 11/8	3○2 11/1	4	6	11	15	-4	13	
9	日大	0●1 法大G	2●4 日体大G	0●2 千葉東総	1●2 ゼットエー	4△4 平国大G	0△0 江戸陸	1○0 東洋大G	2○0 味フィ西	1△1 11/15	3○0 11/1	0●2 10/18	3	5	3	14	16	-2	12
10	東農大	0●3 保土ヶ谷	1●2 産能大G	0●1 平国大G	0●3 青学大G	0●1 法大G	1△1 日体大G	0●1 東洋大G	1○0 千葉東総	1△1 東学大G	5○0 10/25	1○0 11/9	3	6	2	10	13	-3	11
11	産能大	0●4 BMWス	3△3 産能大G	0●1 産能大G	1○0 青学大G	2△2 法大G	1●4 日立	0●4 青学大G	1△1 たつこ	0●3 産能大G	0●5 東国大G	6○4 11/15	2	6	3	14	31	-17	9
12	平国大	3●5 平国大G	0●5 日体大G	0●5 川口	1△1 日体大G	0△0 東洋大G	1●2 日体大G	2●3 平国大G	2●3 日体大G	2○0 川口	0●1 たつこ	4●6 産能大G	1	8	2	15	31	-16	5

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント



あなたの就活を、専任アドバイザーがマンツーマンでサポート。

# 日本体育大学 vs 東洋大学

9月6日(土)  
11:30K.O.  
産能大G

前期は予想以上に苦しんだ、昨季1部リーグの両チーム。日体大が4勝2敗5分の6位、東洋大が5勝5敗1分の7位。お互いに失点は多くないチームだが、予想以上に得点を取ることに苦しんだ。そして、勝点差はわずか1だが、内容を見れば日体大は5引き分けと勝ち切れず、東洋大はまさかの5敗という負け数の多さが気にかかる。前期最終戦と同カードでスタートするこの対戦だが、より勝負強く、粘り強く生まれ変わったのはどちらのチームか。そして、1年での1部復帰に向けて希望の灯りをとすのはどちらか。

日体大は前期、連勝スタートを切ったものの、DF広瀬健太(4年)の戦線離脱から歯車が狂い始め、競り合いながらも勝てない試合が続いた。DFメンバーをやり繰りしながらの戦いも、失点は少なくリーグナンバーワン。その一方で、得点数はリーグワースト2位だ。ある程度ボールは持てるものの、チャンスメイク自体が少なかった。「守備に回った時に相手にボールを持たせ過ぎる。逆に、奪った時に攻撃の形にできていない」(倉又寿雄監督)。後期はいかに攻守のメリハリを持たせられるか。後期での挽回に向け、良いスタートを切りたい。一方の東洋大もそれは同じ。黒星スタートでつまづい

た前期の二の舞は避けたいところだ。前期の日体大戦は、立ち上がりの2失点が流れを決めてしまった。もともと守備は堅実なチームだが、今季は攻守のバランスを欠いている。後期に向けては、個人のベースアップを課題とした古川毅監督。それがチームとしてのレベルアップにつながれば、上位には怖い存在になり得る。

<出場停止>阿部潤(日体大)/3回警告:藤井貴之(日体大)、小山大貴(東洋大)

<前期の対戦>日体大2-1東洋大

日体大	東洋大
2. 高野	16. 石坂
16. 平塚	20. 仙頭
3. 広瀬	9. 川森
7. 長谷川	4. 郡司
23. 小泉	7. 斉藤
1. 伊藤	1. 浅沼
24. 大石	15. 小山
13. 増谷	14. 遊馬
14. 藤井	5. 田口
11. 小山	10. 平石
6. 赤平	2. 池田

# 青山学院大学 vs 日本大学

9月6日(土)  
11:30K.O.  
ゼットエー

昇格ラインまで勝点6差の4位につけている青学大と、前期終盤の追い上げで9位に浮上した日大との対戦。攻撃面で技術力も高い青学大に対し、関東復帰1年目の日大も前期終盤は2連勝でフィニッシュしており、粘りの試合展開が結果につながるようになってきた。青学大は11試合中5引き分けというのが気にかかる。下位を相手にしっかり勝ち切れるか。逆に日大は、なかなか破れていない上位の壁を破れるか。

青学大は、前期序盤は引き分けを含め勝てない試合が多く、やや低迷したが、崩れることなくなんとか持ち直し、最終戦は3-0と快勝。アミノバイタル杯でも4位となり、2年ぶりに総理大臣杯にも出場した。後期は、しっかりと昇格争いに絡んでいくことが至上命題だ。攻撃面ではボールポゼッション能力が高いが、決定力不足な面も目立つ。前期の日大戦も、2点を先行したが決して楽に勝ったわけではなく、後半は足が止まって追い込まれた。90分を通したペース配分と、シュートの意識が課題だ。「後期はからのスタート」と話す宮崎純一監督。まずは順位や勝点差を意識せず、一つひとつの試合を大事に戦いたい。

対する日大は前期、1年で関東に戻ってきたとはい

え、序盤は得点が奪えず苦しんだ。しかし、試合内容にはある程度の安定感があり、上位には大量失点もあったものの、大崩れした試合はない。前期後半は5試合で11得点と感覚が戻ってきて降格圏を抜け出しただけに、後期はさらに順位を上げていきたいところ。「まだ甘い部分が多かったのが前期の反省」(川津博一監督)。集中力を保ち、粘り強く接戦を勝ちにつなげていきたい。

<3回警告>なし

<前期の対戦>青学大2-1日大

青学大	日大
16. 諸井	29. 高田
7. 荒木	14. 成瀬
3. 御牧	7. 廣田
17. 角宮	3. 奥村
15. 飛田	19. 高山
1. 高橋	1. 谷
8. 伊藤	10. 小林
5. 京谷	13. 中野
10. 関谷	15. 山口
11. 恵	9. 宇都宮
2. 堤	6. 中村

# 関東学院大学 vs 産業能率大学

9月6日(土)  
13:50K.O.  
産能大G

前期最終戦で首位の神大を破り、勝点で並んで折り返した関学大と、関東リーグ初見参の前期は11位に終わった産能大との対戦。しかし、前期の対戦では3点を先行した関学大に対して産能大が驚異の粘りを見せており、お互いに負けられない興味深いゲームとなりそう。関学大は初の1部昇格を、産能大は初の関東リーグへの定着を狙う後期の大事な初戦となる。

首位と勝点差で並ぶ関学大は、前期最終戦でその首位の神大を破った。勝つか負けるかで格段に異なる重要なゲームを制したのは非常に価値があるが、石村大監督が「あと5分あったら逆転されていた」と話したように、3点を先行しながら終盤で相手を勢いづかせてしまったのは、試合運びの面で後期への課題だ。豊富な運動量と基本に忠実な守備に加え、今季は得点ランキング上位に顔を出している3選手を中心とした得点力の高さが武器で、前期は全試合で得点を記録し最終戦で神大の数字を超えた。石村監督は「一つひとつのプレーの精度を上げることが後期の課題」と話す。1試合1試合を大事に戦い、終盤戦までに取りこぼしをしないことが重要だ。

一方の産能大は、前期の開幕当初は初の関東リーグでの戸惑いを隠せなかったが、徐々に自分たちから仕掛け

る形をゲームで表現できるようになった。実際に初勝利は第7節だったが、関学大との3-3、法大との2-2など、内容的にも精神的にも評価できる試合も多かった。しかし最終戦の日大戦は0-3の完敗。「どういふプレーが通用するのかわからないのか、課題がわかった前期だった」(加藤望監督)。ペースを握れる時間をいかに長くできるか。中断期間の成長が試される。

<3回警告>楠元秀真・須永亨(産能大)

<前期の対戦>関学大3-3産能大

関学大	産能大
2. 吉田	19. 石渡
8. 普光院	10. 見留
3. 原島	4. 楠元
18. 萱沼	8. 浜下
7. 太田	17. 岡村
1. 井田	9. 越智
10. 土館	1. 森谷
19. 山口	14. 須永
9. 富樫	6. 遠藤
11. 中村	29. 遠藤
16. 木村	15. 杉崎

# 法政大学 vs 東京学芸大学

9月7日(日)  
11:30K.O.  
早大G

総理大臣杯で決勝進出を果たした法大と、前期は8位という不本意な結果に終わった東学大。奇しくも、前期最終戦と同カードで後期開幕を迎えることになった両チーム。法大は総理大臣杯の勢いをリーグ戦に持ち込めるか。東学大は前期最終戦の雪辱を果たし、後期の巻き返しにつなげたい。

その法大だが、総理大臣杯出場は昨季に続き2年連続。昨季はアミノバイタル杯での好調と総理大臣杯の経験をリーグ戦に生かせずじまいだったが、今季は決勝まで進出して大きな自信を手に入れたはず。前期も、連勝スタートで第9節まで負け無しだった。しかし、下位を相手に勝ち切れない試合も多く、結果的に惜しい勝点を失っている。また、上位2チームに競り負けたことも後期への課題だ。接戦を勝ち切る力は、トーナメント戦で培ってきた。持てる攻撃力を試合で発揮するという課題も、組織的な守備の浸透と走力のアップで克服してきた。「粘り強い戦いをする自信はついてきた。より多くのチャンスを作ることが大事」(長山一也監督)。

対する東学大は、2連勝で好調なスタートを切ったかと思われた前期だったが、徐々に調子を落として最終的に4勝6敗1分の8位。何より予定外だったのは、リー

グワースト2位の11得点という得点力不足だ。ここ数年来の課題ではあるものの、今季は前線の高い運動性を武器に攻撃力アップが期待されたはずだった。また、不運な失点や防げた失点も多く、檜山康監督は後期への課題として守備の強化を挙げていた。レベルアップした法大をどう抑えるか、この開幕戦が後期の試金石となる。

<3回警告>西室隆規・青島拓馬(法大)、永井雄介(東学大)

<前期の対戦>法大2-0東学大

法大	東学大
2. 永戸	5. 廣木
10. 高橋	10. 佐々木
22. 田代	11. 五十嵐
28. 柳沢	4. 脇本
18. 鈴木	21. 永井
9. 相馬	1. 須賀
6. 星	8. 菅
3. 宗近	9. 山田
8. 三田	3. 安藤
27. 山田	18. 久保
	2. 吉田